



宮内庁式部職楽部「雅楽」特別公演  
プログラム



## 高槻市長 ご挨拶

このたび、「宮中の雅～宮内庁式部職楽部『雅楽』特別公演」が、本市の文化芸術の発信拠点である「高槻城公園芸術文化劇場」において開催できますことを大変喜ばしく思います。

本市東部の淀川河川敷に広がる「鶴殿のヨシ原」で育つヨシは、大型で太く弾力性があり、雅楽で主旋律を奏でる管楽器・箏（ひちりき）の蘆舌（ろぜつ・吹口）に最適であるとされ、宮内庁に長年納められてきた縁から本公演が実現いたしました。開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

本日の特別公演では、国の重要無形文化財であり、ユネスコ無形文化遺産にも位置付けられる宮内庁式部職楽部の皆様にご出演いただき、1200年以上の長きにわたり継承されてきた多彩な雅楽の演目が披露されます。

公演会場となるトリシマホールは、地元大阪産の木材をキューブ状に加工し、壁面から天井まで張り巡らせた個性的で印象に残る高槻オリジナルのデザインとなっています。約27,000個ある木製キューブは、音響効果を高めるように配置されていますので、ご来場の皆様におかれましては、木の香るこの空間で、素晴らしい演奏と豊かな音の響きをお楽しみいただければ幸いです。

結びに、ご来場の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

高槻市長 濱田 剛史



## 首席楽長 ご挨拶

本公演は、高槻市、公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団、並びに一般社団法人雅楽協会の連携により実現し、宮内庁式部職楽部として協力をさせていただくこととなりました。高槻市の「鶴殿のヨシ原」では、雅楽の楽器「箏」に必要不可欠なヨシを古来守り育てていただいております。その高槻市で公演機会をいただき感謝の念に堪えません。本公演を通じて多くの方々に雅楽の魅力を知っていただき、雅な時間をお楽しみいただければと存じます。

今回の公演は、昨年秋に設立された一般社団法人雅楽協会が企画制作する初の公演事業でもあり、雅楽の普及と発展を図り文化芸術の発展に寄与することを目的とする雅楽協会にとっても、また雅楽界にとっても極めて重要な公演です。本公演が「雅楽」としてより良い未来へとつながる一助となることを期待いたします。

最後になりましたが、高槻市をはじめ関係者の方々のご尽力に、心より感謝申し上げます。

宮内庁式部職楽部首席楽長 多 忠輝



## プログラム

宮中の雅～宮内庁式部職楽部「雅楽」特別公演  
2024年9月28日(土) 15:00開演  
高槻城公園芸術文化劇場 南館 トリシマホール

### 第1部 管絃

壺越調音取 春鶯囀入破 一声〔朗詠〕 酒清司

### 第2部 舞楽

左方 賀殿 右方 還城楽 仁和楽

## 配 役

				管絃					
笙	小原 完基	三ノ句 豊	管絃 靖秋	二ノ句 多	忠純				
箏	久恒 壮太郎	都祭 瑞貴	東儀 季和						
笛	植原 宏樹	小山 貴紀	保志 瑞士						
琵琶	豊 剛秋	四條 丞慈							
箏	一ノ句 増山 誠一	東儀 季智							
鞆鼓	松井 北斗								
太鼓	大窪 康夫								
鉦鼓	東儀 季辰								
				舞楽					
〈無人〉									
賀殿	岩波 孝昌	山田 文彦	平川 幸宗	東儀 季智					
右方 還城楽	大窪 貞夫	(蛇持)東儀 季和							
仁和楽	松井 北斗	豊 剛秋	豊 靖秋	東儀 季和					
				〈管方〉					
笙	池邊 光彦	左音頭 増山 誠一	右音頭 小原 完基	多 忠純					
箏	東儀 季祥	左音頭 久恒 壮太郎	右音頭 四條 丞慈	都祭 瑞貴					
笛	大窪 康夫	左音頭 植原 宏樹	右音頭 小山 貴紀	保志 瑞士					
鞆鼓・三ノ鼓	多 忠輝								
太鼓	上 研司								
鉦鼓	東儀 季辰								

## 曲目解説



管 絃

管絃は、唐樂の器樂合奏です。古くは高麗樂でも行われたようですが、何時の頃に行われなくなりしました。唐樂には、杏越調、平調、双調、黄鐘調、盤涉調、太食調の六つの調子があります。今回は杏越調の曲を演奏します。

### いちこつちやうねとり 杏越調音取

杏越調は唐樂六調子の一つで、杏越〔洋樂のD音に近い音〕を基音とした呂旋の調子です。

音取は、管絃演奏に先立って奏する短い曲で、音律を整えその調子の雰囲気を作ります。笙・篳篥・笛の音頭と鞀鼓そして主琵琶・主箏が奏します。

### しゆんのうでんじゆは 春鶯囀入破

春鶯囀という大曲の中の一曲で、入破〔第四楽章〕と呼ばれる部分です。唐の太宗〔在位 627 年～707 年の作ともいわれ、また高宗〔在位 650 年～683 年〕が鶯の声を聞き白明達に作らせたもの、あるいは合管青という人の作であるともいわれています。

文武天皇〔在位 697 年～707 年〕の御代に遣唐使粟田道麿が我が国に伝えたものといわれています。

### ろうえい いっせい 朗詠 一声

「朗詠」は、漢詩を唐樂器の伴奏で歌う声樂です。平安中期の最盛期には 200 曲余もありましたが、現在は 14 曲だけが伝えられています。

奏法は、詩を一ノ句、二ノ句、三ノ句に分け、それぞれの句頭を主唱者が独唱し、付所から歌方の全員が斉唱するという独特の形式をとります。斉唱の時は、笙、篳篥、龍笛の各音頭が伴奏します。そして、二ノ句は、一ノ句、三ノ句より一オクターブ高い音程で歌います。

なお、朗詠は固定された調子がないため、その時の管絃の調子に合わせて奏されます。

一声は「和漢朗詠集」巻下「雜・管絃」の部に収められた唐の詩人公乘億の詩に曲を付けたもので、唐の

玄宗皇帝が洛陽で管絃の遊びをした時のさまを描いた漢詩です。

(一の句) 一声ノ鳳管ハ秋秦嶺ノ雲ヲ驚カス  
(句頭) (付所)

(二の句) 数拍ノ霓裳ハ  
(句頭) (付所)

(三の句) 暁候山ノ月ヲ送ル  
(句頭) (付所)

鳳鳴の笙のすんだ響きは、はるかに秦嶺になみよろう秋の雲に響きを伝える。霓裳羽衣の舞いの伴奏のリズムは、かの緱氏山頭のありあけ月の光を西にかたむけさせる

※『日本古典文学大系』73 巻(岩波書店)167 頁より転載

### しゆせいし 酒清司

この曲の由来や伝来等は、明らかではありません。催馬楽の「眉止自女」の旋律に合うといわれていますが、現在、眉止自女の曲は絶えてしまっています。

早四拍子〔4/4 拍子の 4 小節で 1 楽節をなす拍節〕の小曲ですが、近年では、あまり演奏される機会がない曲です。



舞 樂

大陸系の「舞樂」は、左方の舞〔中国系〕と右方の舞〔朝鮮系〕に大別されます。

今回、左方は「賀殿」、右方は「還城樂」、「仁和樂」を演奏します。

### かてん 賀殿

仁明天皇の承和年間〔834 年～848 年〕に遣唐使判官藤原貞敏が、藤原武に琵琶で習ってきて世に広めたと伝えられ、舞は林直倉が作り、嘉祥樂を破とし賀殿を急とした合成曲です。また、隋の煬帝が作った「河伝」を原曲とする説もあります。

この曲は、新築落成等の慶事で萬歳樂とともによく演奏されます。左方の四人舞で、賀殿専用の甲をかぶり、襲装束を着装し、右肩を袒いで舞います。破の曲は静かにゆったりと、急の曲は変化に富む早い動きで舞われます。

今回は破のみの演奏になります。



### うほうげんじょうらく 右方還城樂

唐の玄宗〔在位 712 年～756 年〕が、韋後の乱を平定して夜半に帰城した時に作ったことから曲名にしたといわれており、王の行幸や還御の際に演奏されたといわれています。

舞樂で演奏されることが多い演目ですが、「見蛇樂」、「還京樂」ともいい、蛇を好んで食した西国の人が蛇を見つけ捕らえて喜ぶ姿を舞にしたものといわれており、舞樂では、左方と右方の二つの舞振りと楽曲の奏法が

あります。

右方の舞人は、面・襦袢装束を着装し、右手に桴を持ち、まず笛と打楽器による乱序の演奏で出手、次に八多良拍子〔2 拍と 3 拍の混合拍子〕の当曲〔全員で奏する〕、最後に再び乱序で入手を舞って終わります。

なお、始めの乱序の舞の途中で蛇持が舞台上に登り、中央に蛇を置きます。



### にんならく 仁和樂

光孝天皇の仁和年間〔885 年～889 年〕に勅命によって百済の真雄が作り、年号をとって曲名にしたといわれています。

高麗杏越調の四人舞で、舞人は鳥甲・襲装束を着装し、右肩を袒いで舞います。

「当曲」が奏されると舞人が順次舞台上に登り、舞座の揃ったところで舞が始まります。



「雅楽」とは、元来は「俗楽」に対する言葉で、正統の音楽を意味します。この意味で雅楽と呼ばれる音楽は中国や朝鮮にもありましたが、その音楽そのものは日本の雅楽とは全く別のものです。

日本の「雅楽」は、日本古来の歌と舞、古代のアジア大陸から伝来した器楽と舞が日本化したものおよびその影響を受けて新しくできた歌の総体で、ほぼ10世紀（平安時代中期）に今日の形に完成した日本の最も古い古典音楽であります。

主として宮廷、貴族社会、有力社寺などで行われてきましたが、現在では宮内庁の楽部が伝承する雅楽がその基準となっています。

## 1 雅楽の種類

雅楽には、その起源系統によって「国風歌舞」、「大陸系の楽舞」および「歌物」の三種の種類があります。

### 〔1〕国風歌舞（神楽、東遊など）

日本古来の原始歌謡とこれに伴う舞に基づき平安時代に完成した歌と舞です。神楽、東遊、大和歌、久米舞などがあります。「上代歌舞」、「日本固有の歌舞」などとも呼ばれていますが、平安時代中期に今日の形に完成したものであり、また、大陸系の楽舞の影響を受けており、とくに伴奏に外来楽器の箏を採り入れたことは注目すべき点です。

### 〔2〕大陸系の楽舞（唐楽と高麗楽）

5世紀頃から9世紀初までの約400年間にわたって朝鮮、中国などから伝来したアジア大陸諸国の音楽舞踊に基づき平安時代に完成した器楽と舞です。

大和時代から奈良時代までは種々の外来楽舞はそれぞれ渡来した時の形で演奏されていましたが、平安時代には次第に整理統合され、日本化されてきます。すなわち、まず、その伝来の系統により「左方」と「右方」とに分けてその楽器編成が区別されました。左方は中国、中央アジア、インド方面に起源を有する楽舞に基づくもので、これを唐楽と呼び、右方は主とし

て朝鮮、満州方面に起源を有する楽舞に基づくもので、これを高麗楽と呼びます。また、演奏の形態により「管絃」と「舞楽」とに分けてその演奏技法が区別されました。さらに、多種の外来楽器は取捨選択され、楽団編成は小規模な室内楽形式に変わりました。このような外来楽舞の一大変革と同時に、日本人による作曲、編曲、作舞も盛んに行われ、ここに極めて繊細、優美な日本独自の雅楽が完成したのです。

### 〔3〕歌物（催馬楽と朗詠）

大陸系の音楽の影響を受けて平安時代に作られ、唐楽器等の伴奏で歌われるようになった歌です。民謡を歌詞とする催馬楽と漢詩を歌詞とする朗詠とがあります。

なお、和歌を歌唱する「歌披講」（宮中の歌会始の儀などで行われています。）は朗詠と同時代に完成した音楽の一分野ですが、全く楽器の伴奏を用いることがなく、雅楽の中には入っておりません。

## 2 雅楽の演奏形態

雅楽には、「管絃」、「舞楽」および「歌謡」の三種の演奏形態があります。

### 〔1〕管絃

大陸系の雅楽器で奏する器楽合奏です。現在では、もっぱら唐楽を演奏し、ほとんど高麗楽は演奏されません。いわゆる「三管両絃三鼓」の楽器編成で演奏します。「三管」とは笙、箏、龍笛三種の管楽器を、「両絃」とは琵琶および箏の二種の絃楽器を、「三鼓」とは鞀鼓、太鼓および鉦鼓の三種の打楽器を言います。

管絃では、管楽器が主な役目をします。すなわち、箏が主旋律を奏し、龍笛が同じ旋律をやや装飾的に奏します。これに、笙が和音を付けます。打楽器はもちろんリズムを受け持ちますが、絃楽器も主としてリズム楽器として用います。

奏法は、舞楽の場合には活発に力強く奏するのに対して、管絃の場合には緩やかに繊細に奏します。

なお、歌謡のうち催馬楽と朗詠は、管絃の演目の中に入れて演奏することもあります。

### 〔2〕舞楽

音楽とともに奏する舞で、歌に伴って舞う「国風舞」と、唐楽の伴奏で舞う「左方の舞」および主として高麗楽の伴奏で舞う「右方の舞」とがあります。

①国風舞は、装束も簡素で、舞い振りも素朴ですが、高雅で壮重なものです。歌の伴奏に和楽器と外来楽器を併せて用います。

②左方の舞は、原則として赤色の系統の装束を用います。舞人は、向かって左の方から進み出て舞台上に登ります。伴奏は、通常、絃楽器を用いず、三管三鼓の楽器編成で演奏します。箏と龍笛の旋律に合わせて舞います。

③右方の舞は、原則として緑色の系統の装束を用います。舞人は、向かって右の方から進み出て舞台上に登ります。伴奏は、左方の舞と異なり、笙を通常は用いず、龍笛に代わって高麗笛を、鞀鼓に代わって三の鼓を用います。絃楽器は、全く用いられません。三の鼓と太鼓のリズムに合わせて舞います。

### 〔3〕歌謡

雅楽器の伴奏で歌う声乐で、日本古来の原始歌謡に基づく「国風歌」と、大陸系の音楽の影響を受けて作られた「催馬楽」および「朗詠」とがあります。

①国風歌は、伴奏に和琴、神楽笛などの和楽器と箏のほか、曲目により神楽笛のかわりに龍笛、高麗笛などの外来の管楽器を併せて用い（笙は、全く用いられません。）、笏拍子を打って、高雅に歌います。

②催馬楽は、伴奏に三管と両絃を用い、笏拍子を打って、俗調の和文を拍節的に歌います。

③朗詠は、伴奏に三管だけを用い、閑雅な漢詩文を

非拍節的に歌います。

歌謡は、いずれも句頭の独唱に続いて歌方の全員で斉唱しますが、管楽器は主奏者だけが演奏します。

また、笙は、管絃や舞楽の場合に和音を奏するのは違って、歌物の場合には旋律を奏します。

## 3 雅楽の文化的価値

雅楽は、千数百年の伝統を有し、世界で最も古い音楽文化財として貴重な歴史的価値を持つものであり、昭和30（1955）年、宮内庁式部職楽部の楽師が演奏する雅楽は国の重要無形文化財に指定され、楽師の全員が重要無形文化財保持者に認定されています。さらに、平成21（2009）年には、ユネスコ無形文化遺産保護条約「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されました。このように雅楽は、今後伝承されていくべき我が国の伝統文化として国際的にも認知されており、雅楽それ自体が発展し広まるとともに、他の音楽・舞踊に影響を与えていく可能性を有しております。

## 4 宮内庁式部職楽部とは

宮内庁式部職において、宮中の儀式、饗宴、春・秋の園遊会などの行事の際に雅楽や西洋音楽の演奏を担当する部門であり、雅楽の後継者の育成を行っています。

この組織の官制は、明治3（1870）年、皇居が東京に移転するのにともない、京都・南都（奈良）・天王寺（大阪）にあった三方楽所と、江戸の紅葉山の楽人を統一して、宮中の太政官に設置された雅楽局に配属したことに始まります。以降、雅楽課や雅楽部など数回の名称変更を経て、昭和24（1949）年に宮内庁式部職楽部となりました。

## 一般社団法人雅楽協会

宮中の雅～宮内庁式部職楽部「雅楽」特別公演  
企画・制作・協力

2023年9月に、雅楽界全体が共有する課題に取り組むべく、雅楽界を包括する「一般社団法人雅楽協会」が設立されました。

今日、多くの雅楽の素材が危機に瀕しています。特に、箏の舌（吹口・リード）の素材である大阪府高槻市の淀川右岸に育つヨシは、古来の雅楽の音色を保つためには欠かすことのできないものですが、近年絶滅寸前の状態に陥りました。装束や楽器を製作する職人の高齢化、減少も深刻な問題です。また、正確な雅楽の知識の普及や、文化行政に対して雅楽界を代表して申し入れする必要性も高まっております。しかし、いずれも個人、一団体では解決しがたい性質のものです。

これらの諸問題に雅楽界全体として対処していくため、宮内庁式部職楽部と民間の雅楽人が、手を携えて設立したのが「一般社団法人雅楽協会」です。

種々の機縁が熟して、当協会の企画・制作により、本日、雅楽の音色を支えてきた高槻市の皆様、そして雅楽のふるさとである関西圏の方々と宮中の雅楽との素晴らしい出会いを実現することができました。この公演会に関わっていただいたすべての方に感謝申し上げます。この出来事が、今後の雅楽の持続的な継承と普及発展へとつながる一歩となると確信しています。

一般社団法人雅楽協会代表理事 小野 真龍



## 高槻市のヨシ

雅楽の主旋律を担う楽器「箏」に使用される「蘆舌」は植物のヨシから作られています。

古来、「鶴殿のヨシ原」と呼ばれる大阪府高槻市の淀川右岸のヨシが用いられ、「楽家禄」（1690年）の「蘆舌制法」には、「古来摂津国鶴殿の地に生ずる所の葦、これを用ゆ」（原漢文）と記されています。また「摂津名所図会」（1798年）の巻之五第六冊「鶴殿蘆」の項には、「鶴殿村の堤に生出る蘆也 箏の義背に可。之とにかくむかしより世に名高く、貢に献るなり」（鶴殿村の堤に生えている蘆は箏の蘆舌に良い。これはとにかく昔から世に名高く、貢物として献上されている）と記述があります。

このように高槻市のヨシは、古くから箏の蘆舌として宮中等で用いられており、また、現在も宮内庁式部職楽部に納められ、雅楽の演奏に使用されています。



- 主催：高槻市  
共催：公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団  
協力：宮内庁式部職楽部 一般社団法人雅楽協会  
企画・制作：一般社団法人雅楽協会  
協賛：株式会社大槻装束店 有限会社梶本不動産  
琴・三絃やまもと 高槻市農業協同組合  
株式会社たなかや ※五十音順
- ・高槻市市民生活環境部文化スポーツ振興課  
・公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団  
・宮内庁式部職楽部 楽部事務  
・一般社団法人雅楽協会 小野真龍 長谷川直子 相馬寿友美  
[衣紋方] 株式会社 大槻装束店  
[舞台設営] 株式会社 井手口 小栗直人 對比地英章 来栖一弘  
山ノ井朋哉 松原武志 後藤康二  
[舞台管理] 株式会社 橋爪  
[舞台進行] 森田尚宏  
[協力] 株式会社 グリーنزコーポレーション  
和宗総本山 四天王寺（舞台用具貸与） ※五十音順  
[撮影] 三木雅之  
[デザイン] 株式会社 オーバル
- 当日運営：※団体名五十音順  
・一般社団法人大阪楽所 中川千鶴 橋上公美 梅春奈津子 村尾竜圓  
江口由美 雑喉泰行 田中誠  
・天王寺楽所雅亮会（一般社団法人雅亮会） 大澤基 村瀬由紀子  
・天理大学雅楽部 井上靖也 須田実  
・平安雅楽会：岡田日出男 北村真



宮内庁・神社庁・全国神社御用達  
舞楽装束・雅楽器・神官装束  
神社装飾調度品



株式  
会社

**大槻装束店**

代表取締役 大槻 奈津子

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-13-2

電話：03-3835-3201 FAX：03-3835-0617

<http://www.ootsuki-shozokuten.com>

E-mail: info@ootsuki-shozokuten.com

千代田線・湯島駅徒歩4分／銀座線・末広町駅徒歩6分

つたえたい

食と農の

絆づくり



イメージキャラクター  
みんな  
美稲ちゃん

ふれあい・ときめき  
たわわなみのり

 JA たかつき

〒569-0071  
高槻市城北町1-15-8  
<https://www.ja-takatsuki.or.jp>

有限  
会社 **梶本不動産**

大阪府高槻市大手町5番1号 営業時間 10:00~19:00 定休日:毎週水曜日

TEL:072-662-5529 FAX:072-662-5530

<https://www.zennichi.net/m/kajimotofudousan/>



琴  
三絃 やまもと

[www.koto3gen-yamamoto.jp](http://www.koto3gen-yamamoto.jp)



雅 楽 器

創 業  
明治30年



た な か や

定休日:両店火曜

[駅前店] 〒632-0016 天理市川原城町678番地 TEL:0743-63-1154 FAX:0743-63-0357

[三島店] 〒632-0015 天理市三島町427番地 TEL:0743-63-1151 FAX:0743-62-1819

